

令和6年第4回議員定数等調査特別委員会 要点記録

開閉会日時	令和6年7月29日（月曜日）				開会	10:44		会議場所	別海町議会 委員会室 1		
					閉会	12:38					
委員の出欠	1 番	市川 聖母	出席	2 番	吉田 和行	出席	3 番	高橋 眞結美	出席		
	8 番	田村 秀男	出席	9 番	小椋 哲也	出席	11 番	今西 和雄	出席		
	12 番	松原 政勝	出席	13 番	中村 忠士	出席					
委員外の出席								合計	0名		
事務局職員	局長		干場 富夫	主幹		木幡 友哉		合計	2名		
傍聴者数	一般		0名	報道関係者		0名		合計	0名		

会議に付した事件及び会議結果など

発言者			会議経過
委員長	12番	松原	10:44 開会
			出席委員8名、欠席委員0名、委員外0名、会期1日 開会挨拶
委員長	12番	松原	議事1 常任委員会の委員会数や名称、所管事項等に係る事項について
事務局	主幹	木幡	資料2により説明
			・調査の結果、道内町村においては、2委員会構成が多く、広報関連委員会との重複を除き、全議員が複数所属としている町村は少ない。 - また、複数所属としている町村は議員定数が11名以下が多く、少ない議員数で十分な委員会調査を行うために複数所属としていることが推察できる。 - なお、人口及び議員定数が一定以上確保されている町村においては広報関連委員会以外で複数所属としている例はほとんどない。 ・本町における直近1年間の常任委員会活動時間及び日数は、総務文教が約25時間・11日、広報・広聴が約22.5時間・14日、福祉医療が約19時間・12日、産業建設が約13時間・11日となっている。 ・複数常任委員会に所属するメリットデメリットは次のとおり。
			メリット ・議員間の情報共有が可能 ・議員定数減においても委員会人数が確保できる ・広範囲な知識を有することができる ・希望する委員会に所属しやすくなる など
			デメリット ・所管事務調査範囲が広範囲となり、個々の調査対象事項が増える ・招集日数が増える ・委員会の同時開催ができなくなり、定例会中にある場合は会期を延長しなければ開催できない可能性がある など
委員長	12番	松原	・意見等あるか。
委員	9番	小椋	・別海町は複数所属ありの4委員会であることから、全道144町村のうち、2町村の部分に入るのか。
			・そうなる。
事務局	主幹	木幡	・2委員会が多いことが分かった。1委員会の重量が増えると考えていたが、他町村の所管の分け方が参考になり、こう分ければ複数所属よりもいいかもという感じもした。
委員	1番	市川	・2委員会が多いと思った。2委員会もやれば慣れるかなとは思いますが、別海町の議員が多いのは、予算規模が大きく事業数も多いので見るべきところも多いからだろうなと思った。
			・複数所属としている自治体は多くはないようだ。
委員長	12番	松原	

令和6年第4回議員定数等調査特別委員会 要点記録

事務局	主幹	木幡	・半数に満たないくらいが複数所属で、人口規模が小さい自治体が多いという結果になっている。
委員	2番	吉田	・通常委員会の複数所属をしなかった場合でも、広報に所属しなければならない議員が出てくる。本町の広報の活動時間を見ると倍の活動時間になるので、常任委員会として時間を均したほうがいいのではないかという気がする。
委員	13番	中村	・資料について確認したい。別海町に近い人口区分での集計表がないが。 (追って資料を作成し提出することとした。)
委員長	12番	松原	休憩 11:02 (休憩中自由討議)
委員長	12番	松原	再開 11:23
委員長	12番	松原	・委員会数や広報・広聴をどうするかについて、休憩中に議論があったが、広報・広聴の在り方を含めて皆さんから意見をいただきたい。
委員	9番	小椋	・休憩中の話を改めてしたい。 所管ありの委員会数を3のままいくとすると、複数所属が必要になるので、その際は広報・広聴を含めた4委員会の中から2委員会に所属するのがいいと思う。 もし重複なしで2委員会とするならば、調査範囲が1.5倍に加え、広報・広聴に所属した特定の議員にはさらに負担がかかり偏りがあるので、その場合は広報・広聴には全員所属として、全員2委員会所属としたほうが整理が付きやすいと感じた。 まとめると、4委員会の場合は重複ありでいずれか2委員会に所属、または3委員会の場合は、所管付き委員会には1つ所属、広報・広聴には全員所属とするのが、今の問題点を解決しつつ委員定数も満たすためにはバランスがいいかと。あるいは現状維持か。 ・小椋委員の意見はよく理解できる。 だが、(3委員会の場合)4年の議員の任期のうち広報・広聴に半数の議員が2年ずつ所属という案は考えられないか。 ・2年で総入れ替えは実質不可能。誰かが残らなければ連続性が担保できないことになる。 現状でも、結局やらない人が出てきたり、特定の人に負担がかかる状況になっているので、そこは解決する方法を考えていったほうがいいと思う。 ・2年で半数ずつというのはできないこともないとは思う。 今は1期が5人、2期が3人で8人、3期以上が8人で、3期以上の人は既に経験を持っているので、今の段階だったら経験者を振り分ければ回る気はする。 ただ、2年で総入れ替えはどうかという気はする。 ・仕事の内容を知っている人が何人かは残ってもらえなければ大変だということとは私も理解しているし、経験してきた。 ・皆さんからも考えられるパターンを言ってもらって比較検討してはいいかか。 現状維持はないと思うので、私は先ほどの2パターンを提案する。 ・私は小椋委員の案の二つをベースにすると思う。 ・私も外の選択肢はないと思うので、小椋委員と同様に考える。 ・パターンとしてはそのくらいしかないと思うが、その前に(広報・広聴を除いて)3委員会なのか2委員会なのかを考えなければならないのではないかと。各々のメリット、デメリットをもう少し整理して探っていく必要があると考える。 もう一つは、広報・広聴をどうしていくのか。全員所属も考えられるし、

令和6年第4回議員定数等調査特別委員会 要点記録

		今までどおりとも考えられる。 休憩中に出てきた話から、これからは広聴に関する役割が重要になってく ると思うので、全員参加が妥当なのか、一定程度（人数を）絞っていくのが 妥当なのかを考えなければならないのではないかと思います。 ・まさしく3常任委員会なのか4常任委員会なのかを決めていかなければなら ない中で、A（3委員会）とB（4委員会）に分けて意見を出し合った先にどち らにするかの議論になるのではないかと。 その他のパターンがあればそれも加えて、それらの選択肢の中から最終的 にいずれかを選ぶことになるものと思っていた。 ・今西委員と高橋委員の意見を先に伺いたい。 ・委員会としての重みというものを考えて前回までに7名確保することで合 意されたのであれば、重複することは避けて通れないと思う。 また、広報・広聴に関しては、私も経験があるが、特に広報の場合は個人 が持っているもの（資質）が左右すると感じている。 そういう意味では、等しく割り当てるとしてもうまくできない人も出てく るのかなという気がするので、広報については、ある程度今やっていること を繋いでいく必要があり、繋がれた人たちが引き継いでいくような動きがい いかと思う。 これは逃げではなく、実際私の場合は、精いっぱい務めたが、なかなか役 割を果たしていけないという事例があったのも事実なので、広聴については 全員で議論ができるが、広報は全員でというよりも、ある程度（人員を）固 めた中でやるのがいいのではないかと思います。 ・まずは選択肢を決めて、そのあとにそれぞれのメリット、デメリットを出 して、その後に決めていったほうが進めやすいのかなと考えている。 ・まず委員会定数が7名程度ということが決まり、次に3委員会または4委員会 のそれぞれの場合の構造的な部分についてパターンが絞られてきたので、そ れについて議論し、決定する。 その後、今日新たに提起された広報・広聴をどうするかという問題を議論 するといった3段階で結論が出るのではないかと。 広報・広聴をどうするかについては、私が提案した4委員会のパターンで あれば重複に関する問題はないが、3委員会のパターンの場合、一部所属か、 全員所属かという話し合いをする。 ・それでは、確認の意味も込めて、改めて委員会定数は7名程度確保する ということについて異議はないか。 ・異議なし。 ・次に、委員会数についての各委員の意見を伺う。 ・現在の福祉医療常任委員会は、保健生活部が増えて現在3部所管している ので、職員の入替えが2回発生する。（所管あり）2委員会体制にするとさら に入替え回数が増え、ジャンルも飛び飛びになってくると、慣れの問題かも しれないが、今の体感としては厳しいと思っているので、4委員会体制が感 覚としてはスムーズかと思う。 ただ、減ったら減ったで慣れそうな気はするが。 ・複数所属しても所管する部署は増えると思うが。調査時間的に言えば、2 委員会のほうが短くなるような気がするが。 ・私が懸念しているのは議員の負担というより、調査の質についてであり、 役所全体の事業量が変わらないのであれば、負担（の総量）は変わらないと 思うので、負担の分け方をどうするかの問題と考える。
委員	2番	吉田
委員長	12番	松原
委員	11番	今西
委員	3番	高橋
委員	9番	小椋
委員長	12番	松原
委員		一同
委員長	12番	松原
委員	9番	小椋
委員長	12番	松原
委員	9番	小椋

令和6年第4回議員定数等調査特別委員会 要点記録

		ひとつの会議で所管と調査事項が多くなりすぎると質が下がってしまいそうだという点で、大変そうだという感覚。
委員	2番 吉田	・私は最初2委員会がいいと思っていた。理由としては、1年間やってみて、関連があっても所管が違うので（資料や話を）出せないという部分があり、所管の組合せ次第ではまとめて調査ができるということを感じたことから、2委員会が調査しやすいかと考えていた。
		その考えは変わらないが、広報・広聴（を併任する委員）の大変さはあるなと思うところではある。
委員長	12番 松原	・所管の絡み合った調査ができるメリットもあるかと思う。
		事務局長から意見はないか。
事務局長	干場	・メリット、デメリットについては、資料に記載したとおりのことが考えられる。
		また、聞いていた中で思ったことは、広報・広聴への所属に関する意見が出ていたが、加えて特別委員会や議会運営委員会への所属も踏まえて人数を均していくのか、常任委員会のみで考えていくのかでも変わってくるかとは思ったところ。
		メリット、デメリットについては、実際に取組を行った町村の生の声を聞くことも大事かと思うので、後ほど視察に関して協議していただこうと思っている。
委員長	12番 松原	・副委員長はどうか。
副委員長	8番 田村	・私は、（広報・広聴以外の）常任委員会に複数所属することについては、できないことはないが、その議員にとって重荷になるのではないかと思っている。調査事項が多くなるといった問題ではなく、招集のことなどを考えた場合、絶対に無理がかかると思う。
		1委員会の定数が7人という方向性が出たのであれば、7名ずつ2委員会で十分ではないかと思う。
		所管の入替えなどの問題は起きるが、委員会調査は何のためにやるのかということを考えた場合、全ての事務事業を勉強して調査しなければならないわけではなく、委員会調査は、将来議案となる事務事業の賛否を判断するための調査であることから、それほど莫大な問題があるわけではないので、2委員会でも対応可能と思っている。
		広報については、全員所属は無理がかかるので、7人か8人かで、この部分の重複は仕方ないものとして、広報は登竜門として必ず通るなどの申し合わせなどにより、そうしていけばいいのではという気がする。
委員	9番 小椋	・副委員長と今西委員の話では、広報・広聴の役割として、議会だよりの編集のイメージが大きいと思う。実際私も議員になってから広報をずっとやっているが、9割5分が議会だよりの仕事である。
		でも、今後の広報・広聴の役割の中で、議会だよりは作業量が多いが、委員会機能としてはごく一部。今後、広報・広聴をどうしていくのかという検討を行い、実行していくかを考えた場合、今の議論は議会だよりに引っ張られすぎかと感じた。
		今現在の7人体制においても作業量に凸凹があり、今西委員が言ったように、得意な人とそうではない人がいるが、それはなくならないので、全員が広報・広聴に所属したとしても、やれる人がやれる範囲で作業を分担するのは変わらないと思う。
		ただ、広報・広聴常任委員会の位置付けとしては、今後別海町として、広報活動、広聴活動をどうしていくのかという議論の場とすべきだと思って

令和6年第4回議員定数等調査特別委員会 要点記録

いるので、それを全員で議論するほうがいいのか、特定の人で議論すればいいのかというところ。

登竜門という話があったが、そうすると1期生が多くなることから、そこで今後の別海町議会の広報・広聴について話し合っ実効性を持たせられるのかという問題がある。

現在も議運と齟齬があり、議運でもかなり広報・広聴の話をしている現状にある。

そうすると、議運で話しをするから、広報・広聴としては議会だよりのことだけでいいんだなという状態で、足並みが揃わず進みが遅いのが現状であることから、そこを解決する委員会構成は必要かと思う。

議会だよりの編集作業の負担については、議会全体でやれる人がやるしかないの、そこは別枠で考えて、例えば、議会だよりは事務局がやっているところもあるし、業者に委託しているところもあるなど、やり方はいろいろあるが、そこは手法の話であり別のことなので、今後長い目で見たときにいい形になるようにしたいと考える。

また、委員会数については、副委員長が言ったように、やるべきことをやるだけなので、シンプルでいいのではないかなというのもそのとおりかと思う。

3つで複数所属になると、連携が取れる良さはあるが、日程調整が大変だろうなというのは、現実で考えるとあるかと思う。同時開催が絶対にできなくなるというのはまあまあなデメリットになる。

慣れれば2委員会でも大丈夫かなと思うが、所管部署が増えると委員長の調整作業が大変になるので、副委員長との連携に関する運用上の整理は必要だとは思う。

委員 11番 今西

・資料にまとめてもらったもの以外でも、もっと細かくメリット、デメリットを上げていって議論してはどうか。

委員長 12番 松原

・同様の体制を取っている町村の視察もしながら進めていきたい。

委員 13番 中村

・視察に関してはそれでいい。

それと、今西委員が言ったように、もう少しメリット、デメリットを客観的に見ながら考えていったほうがいい。

重大な決定を我々はしなければならぬので、委員長や今西委員が言ったように、視察なども含めてもう少し検討してやっていきたいと思っている。

それともう一点、先ほど話も出ていたが、2常任委員会になった場合でも、例えば教育委員会の調査をしているときに産業の話はできないわけで、合同委員会のようなイメージをもし持っていたら、そうではないということは認識しておいたほうがいい。所管ごとに個別のやり取りになる。

委員 9番 小椋

・視察の話があったが、気になる点としては、Aパターン（4委員会、複数所属）、Bパターン（3委員会、広報・広聴のみ複数所属）で考えた場合、Bは道内で実施している自治体があるので視察可能だと思うが、Aは道内0。

なので、議長会に問い合わせるなどして、そういう方式を取っている自治体が全国にあるのかを確認してみたほうがいいのか。

それで全国でも0となれば、その方式を取らないことに関する何らかの理由があるはず。

北海道内で、所管ありの委員会に複数所属している自治体はそんなに数も多くなく、時代の流れなどもあるかと思うが、全国レベルで所管ありの複数所属が0だったら、運用上に問題や法的な部分で問題があるかもしれないので、議長会に問い合わせて情報を得ることができないか。

もし、該当自治体があるのであれば、どの自治体か確認し、電話で聞き取

令和6年第4回議員定数等調査特別委員会 要点記録

			りできると思うので、事務局には負担をかけるが、その調査をしてもらいたい。 道内視察先の選定については、広報が常任委員会化されていて複数所属ありの町村がいいと思う。人口規模が近くて、我々と違う全員所属の方式を取っている町村の話が参考になるのではないかな。 該当する自治体としては、白老、森町、栗山、長沼あたりかと思うが、全て遠方になってしまう。 ・次回まで小椋委員の意見に関する調査を行えるか。 ・はい。 また、今西委員から話のあったメリット、デメリットの抽出に関して一点お願いがある。 私も考えられる限りのメリット、デメリットを抽出するが、委員の皆様からも、議員の立場として考えられるものを提示していただけるとありがたい。 ・先ほどの件を全国議長会に問い合わせた後でどうか。 全国で事例がなければ、事例がないということが大きなデメリットやメリットになるし、事例があったとして、それを採用している町がどんな町なのかによっても扱いが変わるかと思っている。 例えば、古くからの体制でそうになっているだけなのか、議会活動が盛んで議会改革に力を入れて取り組んでいる結果、その方式を採用しているのか、後者であればメリットとしても考えられるが、このあたりの情報と事務局で抽出したメリット、デメリットを併せて見て、さらに追加があれば各委員から提示するといった流れがいいと思ったところ。 ・そういう流れでいいか。 ・はい。 ・今出た案それぞれに対するメリット、デメリットを議会サポーターに聞いて意見を貰うことは、サポーターとしての仕事の範疇か。 ・はい。 ・であれば、土山サポーター、西科サポーターにも意見を貰ってほしい。 ・ただ、重複しているところが少ないのが何故かということ、本会議主義では範囲が広いので、議員を分けて委員会主義でやろうというのが基本かと思うので、重複しないのはそれが理由だと思う。 ・いずれにしてもサポーターの考え方は聞くこととしたい。
委員長	12番	松原	
事務局	主幹	木幡	
委員	9番	小椋	
委員長	12番	松原	
事務局	主幹	木幡	
委員	9番	小椋	
事務局長		干場	
委員	9番	小椋	
副委員長	8番	田村	
委員長	12番	松原	
委員長	12番	松原	
事務局	主幹	木幡	
委員長	12番	松原	
委員	9番	小椋	
副委員長	8番	田村	

議事2 議員定数に関する事項について

資料2により説明

・前回会議で議員定数に関する議論の足掛かりとする資料が欲しいとのことから、令和元年から令和5年までに北海道内町村で議員定数を削減した町村をまとめた。

直近5年間で議員定数を削減した町村は24町村、うち1名減が15町村、2名減が8町村、4名減が1町村となっている。

また、定数を増加した町村はない。

- ・意見等あるか。
- ・最終的に1減にするのか、2減にするのかとなったときにその根拠が必要になってくるので、そこを検討していかなければならないと感じているところ。
- ・議会活性化計画の中では、議員定数減を視野に考えていくということが重点項目となっている。

1減らすのがいいのか、2減らすのがいいのかの根拠については、管内、道内、全国の人口規模や予算規模などの資料を見ながら決めていかなければな

令和6年第4回議員定数等調査特別委員会 要点記録

		らないのではないかと思います。議論をしても確固たる根拠を示すまでの結論は出ないような気がしている。
		管内では、中標津が15人になり、根室市は16人。どれだけ人口が少なくても10人は必要だとかの最低限度もある。
		これらを踏まえると1、2名の減となるのかなという気がする。
委員	9番	小 椋
		・まさにそういうことを指して言ったところ。
		どこに根拠を求めるのかを話し合う必要がある。計算式で計算した結果ということではなく、管内のバランスに合わせるのか、予算規模に根拠を求めるのか、地域の数に根拠を求めるのか。
		C区分の類似町村の範囲でいうと、一番少ないのが栗山町の11名、一番多いのが別海町の16名となり、現実的にこの間という感じ。
		この範囲では14名が圧倒的に多いことから、全道的な類型でみれば14名ぐらいが適正なのかなという判断はできる。
		C区分の中で別海町が他と違う点はというと、予算規模や面積が大きいこと。
		その他、議員定数を左右する要素が考えられるのであれば、皆さんから意見を出してもらってまとめていけばいいかと思う。
副委員長	8番	田 村
		・1人の議員が対する住民の数は全道的に900人から1,000人ぐらいとなっている。
委員	13番	中 村
委員	9番	小 椋
		・参考として、減した町村のその後についても知りたいと思うが。
		・直近5年間で減した町村へのメリット、デメリットに関するアンケート調査は可能か。
		できれば多く情報を得たい。
委員長	12番	松 原
事務局	主幹	木 幡
		・出向いてとなれば可能かもしれないが、どうだろうか。
		・対象町村いくつかは電話連絡を入れて、全般的に感触が良ければ返答も多くもらえると思うので、その場合は文書で道内全対象町村に送付するといったことを考えてみる。
委員	13番	中 村
		・加えて、この件についても専門的な立場であるサポーターに意見や参考文献の紹介などをお願いしてほしい。
委員	11番	今 西
委員	9番	小 椋
		・減らした根拠も併せて調査してほしい。
		・大学教授が全国の状況を調査した研究論文等があれば独自アンケートは取らなくてもいいかもしれないので、先にサポーターに聞いてから、研究結果がなければアンケートを取るといった流れではどうか。
		ちなみに大学等からの定数に関するアンケート調査に答えた記憶はあるか。
事務局長		干 場
委員長	12番	松 原
		・ここ2年間では記憶にない。
		・それでは、まずサポーターに調査資料等の有無を確認し、その後、アンケート調査を行うということで進めたい。
委員長	12番	松 原
事務局長		干 場
		議事3 その他
		・今年度の視察研修について、中標津町については8月の選挙後に日程調整をして進めたい。
		また、他に道東の先進的な議会改革に取り組んでいる町村への視察を泊りで行うとなった場合、予算が伴うことから、9月定例会で補正予算が必要になる。
		年内に中標津町以外の視察を行うのか、行う場合、視察先の提案があるか、または正副委員長と事務局に視察先の選定を一任してもらえるかについて意見をいただきたい。
委員長	12番	松 原
		・意見等あるか。

令和6年第4回議員定数等調査特別委員会 要点記録

委員	9番	小椋	・中標津町の視察については、定数・報酬減が選挙にどう影響したかを新人議員から話が聞けることが有効だということで決まったことだと思うが、それ以外の場所については、何を課題として行くのかを決めなければならないと思う。 - 課題を決めずに事務局に一任しても目的がぼやけた状態になってしまうと思うので、まず課題の設定について話し合ってはどうか。 ・視察調査の課題について、意見を伺う。 ・3点ある。 1点目は、2委員会にする場合を想定し、ある程度の規模で2委員会制を取っており、酪農・漁業を中心とした産業形態を持っている町村の意見を聞きたい。どのような所管分けがされているかを参考としたい。 2点目は、議会運営委員会の位置付けが別海町と違う町村の意見を聞きたい。別海町は各常任委員会の委員長が入っていて、他の委員会より上の位置付けというイメージがあるが、町村によっては他の委員会と完全並列なイメージのところもある。 3点目は、広報・広聴を積極的にやっている町村で、例えば、ライブ配信や意見交換会の在り方など、特に広聴に力を入れている町村の意見を聞きたい。 ・小椋委員の意見を基に、正副委員長と事務局に候補の選定を任せたいと考えてよろしいか。 ・異議なし。 ・補正予算については、宿泊ありで予算計上することとしてよろしいか。 ・異議なし。 ・次回開催日程について、8月30日10時からとしてよろしいか。 ・異議なし。
委員長	12番	松原	
委員	9番	小椋	
委員長	12番	松原	
委員	一同		
事務局長	干場		
委員	一同		
委員長	12番	松原	
委員	一同		
委員長	12番	松原	
委員長	12番	松原	閉会挨拶
委員長	12番	松原	12:38 開会